

しめやかにお別れ

前市長 故星野仁十郎氏市民葬



七月二十二日急逝された前日光市長星野仁十郎氏（七八歳）の日光市市民葬が、八月十二日午前十一時から総合会館で、市民や関係者約八百人が参列し、深い悲しみの中しめやかにとり行われました。星野氏は、明治四十一年三月十六日、日光市清滝に生まれました。

昭和十七年五月一日、日光町議會議員に初当選、以来、町議三期、市議四期と、二十七年余にわたり議員として活躍され、昭和四十四年八月二十八日、日光市長に就任、以

後五十六年八月まで、三期市長職を勤められました。

この間、(助)日光観光施設管理公社設立、霧降高原スキー場のスノーマシン導入など、観光振興に尽力し、冬季国体の日本学生氷上競技選手権大会の誘致、スポーツ少年団結成など、スポーツ振興にも多大の功績を残されました。

このほか、産業、教育、文化、福祉など三十九年余にわたる地方自治発展への功績は多大であり、昭和三十九年には文部大臣表彰、四十六年藍綬褒章、四十七年紺綬褒章を

受章されています。また、このたび特旨をもって「正五位勲三等瑞宝章」が授与されました。

別れを惜しみ

献花の列

日光市市民葬は、市民や関係者約八百人が参列して、しめやかにとり行われました。

葬儀委員長である斎藤市長から「……元気に過ごされていた姿を思い浮かべますとき、私も市民一同、ただ、ぼう然とするばかりです。……あなたのご遺徳を悲しみの中に埋もれさせることなく、日光市発展のため一層努力することを誓い申しあげ、ひたすらご冥福をお祈りいたします」

直に受け取っている感受性などを目の当りにして、この子達が、このような姿で小さく育ってくれたら次代は心配ないなと思った。それにしても、自分の文の構成やら表現で反省もし、感銘を受けた一時だった。

日光市長

斎藤善蔵

寸描



八月一日に非核平和都市宣言の式典が行われた際、小学生、中学生の代表の皆さんの「平和」に対する感想文の発表があった。

市内の各学年から選ばれただけに、内容的にも立派であったし、発表態度も堂々たるものだった。加えて、年齢が高くなるに従って考え方が大

人になって行くように感じました。これは学校を始めとする家庭、社会の教育がなせることと思う。

よく「今の若い者は……」などという言葉を聞くが、次代の子供達の平和についての考え方、国同士、人間同士の醜い争いから何も生まれないことへの認識、他人の痛みを素



と、告別の辞がご霊前に捧げられ、また、国会議員、知事らの弔辞が捧げられました。故人の死を悼むたくさんの弔電が披露され、遺族の謝辞、一般参列者の献花が行われ、一人ひとり白い菊を霊前に捧げ永遠のお別れを惜しみました。

星野家から寄付

八月十三日、遺族代表星野仁氏が市役所を訪れ、行政に役立ててほしいと百万円が寄付されました。市では、ご遺族の意志を尊重し、地方自治振興に役立てていくことにしています。